

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



「道の駅久米の里 機動戦士Zガンダム出現」(津山市)

今年度は、保育園等でも新しい生活様式を取り入れ感染対策を講じながらの通常保育に加え、行事の再構成など例年にも増して気苦労の絶えない一年でした。まだ終わりの見えない状況に不安を感じながらも、子どもたちの笑顔に救われる日々です。

保育・福祉の仕事は「人のため」にある仕事です。肉体労働・頭脳労働・感情労働すべてを必要とします。勤務時間内は常に安心安全な保育を心がけ終始気の抜けない上に、環境整備や書類作成など多岐に渡る保育業務は、子どもの健全な育ちにとって不可欠なものです。とりわけ、感情労働は時に自らの感情をコントロールし、違う思いに共感し寄り添わなければならぬ疲労感の強い労働ですが、自覚して行なっている者は少ないように思います。

子どもの心を読み、思いを汲み、導き、笑顔にする術を持ち、心を掴み虜にできる力こそ保育士の専門性と言えます。しかし、その専門性は正当に評価され働き手に還元されているでしょうか。

保育の担い手の確保が大きな課題である今、一人でも多くの保育士が明日に希望の持てる社会であってほしいと切に願います。

翔



阪田 典子

保育探訪 Part 8

～コロナ禍の行事で考えさせられたこと～

川崎医療福祉大学
医療福祉学部
子ども医療福祉学科

講師 入江 慶太



WHOが新型コロナウイルス感染症のパンデミックを宣言してから一年が経ちましたが、収まるどころかささらに勢いを増して、世界に大きな影響を及ぼしています。そのような状況下でも、保育界では乳幼児の生活や発達を保障し、保護者を支えるために、保育者の懸命な努力が続けられています。

新型コロナウイルスは、これまでに行っていた普段の保育にいろいろな変化をもたらしました。園で行う行事もその一つです。各園によって対応は異なりましたが、園で行う行事は軒並み規模の縮小か、延期・中止を迫られたところが多かったように思います。

そもそも行事とはどのような意味を持つものなのでしょうか。「行事」を辞書で引くと、「恒例として事を執り行う儀式や催し物。」とありますが、保育における行事にはそれ以外に三つの役割があると思います。まず一つ目は、七夕やひな祭りといった行事に代表される「文化の継承」です。昔から伝承される日本の文化に触れ、子どもたちの理解を促していくお誕生日会やお芋ほりなどの「生活における節目」と豊かな体験」です。一年の中で様々な区切りを経験したり、実体験を通して生活を豊かにしたりします。最後に三つ目は、運動会や発表会などを通じた「発達の促進と確認の機会」です。それぞれの年齢に合わせたねらいの中で、子どもたちは自信を育み、協力する大切さを学びます。また、保護者にとってはおわが子の成長を確かめる機会にもなります。今回の新型コロナウイルスによる大きな影響を受けたのは、三つ目に述べた子ども

もと保護者が一堂に会して行う形式の行事だったといえるでしょう。例えば、大人数が集まる運動会や発表会の開催方法について、密を避け安全に行うにはどうしたらよいか、検討に検討を重ねた結果、学年ごとの実施、参加保護者の人数制限、時間差や別日開催等の分散開催とする園が多くなりました。これにより、行事を通じた一人一人の子どもの経験は保障できたものの、保護者にとってはわが子（わが子の学年）のみに目が行き、年齢の違いによる発達の見通しを持つことは難しくなったと思います。また、他の子どもへの頑張りから拍手を送りたくなる機会や行事の一体感を得にくかったのではないのでしょうか。連絡帳に寄せられた保護者の感想も、コロナ禍における行事開催に関する感謝や保育者へのねぎらいの言葉の他は、わが子の成長に関する記述にとどまっていたと聞きます。

一方で、今回の「行事の短縮」は、結果的に保護者にとつての負担を軽減すると思われる向きもあります。分散開催、あるいは中止により、園に拘束される時間が大幅に少なくなるからです。今後、保護者参加型の行事で保護者が得るべきものをどう見定め、どう選択するのか、園（保育者）の願いとどうすり合わせていくのか、子どもにとつて何が最も良いのか、さまざまな観点から話し合いを積み重ねる必要があります。

このように、新型コロナウイルスは、私たちに行事を行うことの意義を再考させるきっかけとなりました。大変な状況は続きますが、目の前の子どもたちのために保育の歩みを止めない保育者の皆様の踏ん張りや創意工夫に心より敬意を表し、一緒にこれからの新しい保育を作っていきたいと思えます。



コロナ禍における園行事の工夫



運動会
のぞみ保育園

例年は園の前の公園を使って一歳児から五歳児までの親子が集い運動会を楽しんでいたが、今年は保護者の密集を避けるために、①二歳児以下の参加を取り止め、②三・四歳児と五歳児の開催日を分け、③クラス別に時間を分け、④種目を減らし、⑤親子競技も取り止め、⑥保護者の参加を世帯で二名までに制限して行った。

子ども達は、親に自分たちの演技を見てもらえることを励みに友達と協力して練習を重ねることで一回り大きく成長できた。制限だらけの運動会であったが、それでも実施してよかったと思う。

運動会



出部保育園

当初は九月二十六日(土)に予定していた運動会だが、感染リスクを考慮し本番全種目はケーブルテレビ局による収録とし、後日各クラスお披露目会を行った。お披露目会では、事前に参加する保護者を把握し、園庭でも密にならないよう保護者席を準備。入場の際にはマスク着用の上、アルコールによる手指消毒と検温の実施。従来の内容とは違う形になり、さらにはどの程度まで対応すれば安心なのか終了後もしばらくは陽性者がいないことを確認するまでは不安しかなかったが無事に終えることが出来た。



発表会
真言保育園

前日に倉敷市で新型コロナウイルスが発生し、不安を抱えた中、感染予防を図りながらの実施となりました。保護者には、体調不良の方は参加を控える、マスクの着用、手指の消毒、検温、会場では間隔をあけて座ることをお願いし、園としても、三密を避けるため、人数制限、会の三部制、見学席をテープで仕切り椅子と椅子の間を開けた。また、常に会場の二か所を開放し、空気清浄機二台を稼働させた。保護者の入れ替え時には、部屋の四方の戸を開放し一層の換気をし、椅子や戸の消毒を実施した。演じる時は、子どもへの向きや間隔に気を配った。保護者は協力的であり会はスムーズに運びましたが、今後の発表会の持ち方についての課題は残りました。

夏祭り



当新田ちとせ保育園

五歳児が「どうぶつ森」を造り、職員はその手助けをして始まった夏祭り。時に子どもたち同士で意見がぶつかり、「もうやらん」と投げだそうなることも今思えば貴重な体験であり、夏祭りの当日はもちろん、準備期間で子どもたち一人ひとりの成長を感じた機会だった。例年ならば、地域の方にも声を掛け、保護者の方にお店を担当して頂き、子どもたちはお家の人と楽しそうにかき氷や屋台を回り、ゲームをしてという行事。形を変えての夏祭りもキラキラした子どもたちの目を見てみると良かったのではないかな。さて、今後はどうしようかな。



夏祭り
山手保育園

毎年七月の夕方に親子で楽しんでいた夏祭りから、今年は感染防止を考慮して、「園児と先生の夏まつり週間」を楽しみました。月曜から「カラオケ大会」が始まり、エントリーをしている子どもはステージで歌声を披露。きょうだいでステージに上がる子どももいました。週の後半からいろいろなコーナー遊びが始まり、三歳未満児のクラスには「おまつり屋さん」がお部屋に来てくれました。金曜日はクライマックスを迎え、先生によるお楽しみショーでサザエさん「おねえちゃんはどこいった?」の劇も観て今年も夏の楽しい思い出ができました。

